

『授業が変わる！ 学びが深まる！ 看護教員のための授業研究』 今後、より必要になる授業研究 の第一歩を踏み出す助けに

著：吉崎静夫，蔵谷範子，末永弥生／定価：本体 2,600 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書は、「授業研究の基礎知識」と「授業研究の実践」の2部で構成されている，看護教員が授業研究を推進するためのすぐれた手引き書である。

第1部では，授業研究に関する理論や手順がわかりやすく解説されている。第1部の著者の吉崎先生は授業研究の専門家であるが，「自身の看護観をもつ看護教員は，他の学問領域以上に自身が表現されていく世界である」と看護教員の独自性を説きつつ，看護教育における授業研究の意義について言及している。

第2部では，「質の高い学習・学力を育む授業への改善」「教員の授業力量を高める」「新たなカリキュラムの構築」「看護師養成における実践課題の解決」「授業研究の共有で生まれる相互作用」というテーマごとに，看護教育における授業研究の好事例が紹介されている。各章では，多くの看護教員が教育に携わるなかで遭遇する悩みの解決に資する実践の創出が語られている。それは，より活発なグループワークへと導くための手立てなど，授業改善の実践的なアイデアに満ちている。また，基礎看護学から在宅看護学まで，看護の領域を広くカバーしており，さらに，校内の同僚同志で実施するもの，他校の教員たちと取り組むものなど，異なる状況で繰り上げられるものを含んでいる。

評者は，本書を読み終えて，看護教育の素晴らしさをあらためて感じる事となった。評者自身

も，科研費による研究プロジェクトの一環として「看護教育における授業研究の意義と企画・運営について学ぶための学習会」に取り組んでいるが，本書をとおして多くのヒントを得ることができた。

本書の叙述に，懸命に看護を学び取ろうとする学生と，それを支え促そうとする看護教員・指導者が一体化する瞬間を幾度と感じたのは，評者だけではないだろう。“授業研究”という営みは，看護教育における学生と看護教員・指導者の学びが共鳴する舞台なのである。

本書の読者は，授業研究というプロセスを経て，看護教育の授業が，躍動感と静寂さを兼ね備えた，より成熟したそれへと変化していく仔細を追体験することができよう。同時に，著者の蔵谷先生，末永先生をはじめ，本書で登場する先生方，指導者の方々の看護・教育観にふれ，看護教育者として授業を創造することへの意欲を掻き立てられるであろう。

昨今，学生による授業評価の結果を授業改善に反映させる組織的な取り組みが，大学における教育内容等の改革などで求められている。今後，看護教員としてカリキュラム開発や授業改善に向けた授業研究の必要性に迫られると考える。本書は，その一助となるのではないだろうか。